



日本植物分類学会 ニュースレター

No. 10

Aug. 2003

目 次

井上健氏ご逝去のお知らせ	2
お知らせ	
日本植物分類学会第3回大会(2004年)のお知らせ.....	2
第4回大会開催地の募集.....	3
2003年度日本植物分類学会関西地区講演会のお知らせ.....	3
アジアの植物多様性と分類に関する国際シンポジウム第1回案内.....	4
第3回(平成16年度)日本植物分類学会賞受賞候補者の募集.....	6
国立情報学研究所電子図書館サービス(NACSIS-ELS)の利用について.....	7
平成15(2003)年度野外研修会のお知らせ.....	8
会費納入と自動振替利用のお願い.....	8
国際植物命名規約(セントルイス規約)2000[日本語版]のご案内.....	8
教官(教授)公募のお知らせ.....	9
Sun(孫)博士らによる <i>Archaeofructus</i> の発見 -IAPT シンポジウム基調講演の紹介-	
.....	10
書評	
ふしぎの博物誌 動物・植物・地学の32話.....	12
Hawaii's Fern and Fern Allies.....	13
生物の形の多様性と進化-遺伝子から生態系まで-.....	14
連絡員からときどき便り	
バナアツのシダ植物	15
沿海州、こんなに多様でええんかい?	16
会員消息.....	17
巻末: アジアの植物多様性と分類に関する国際シンポジウム宿泊予約申込書	

井上健氏 ご逝去のお知らせ

庶務幹事 遊川知久

本会会員井上健氏（信州大学理学部教授）は平成 15 年 7 月 28 日、サハリンで調査中、事故でお亡くなりになりました。本会では絶滅危惧植物・移入植物専門第一委員会の委員長として多大な貢献をされました。深く哀悼の意を表します。

お知らせ

日本植物分類学会第 3 回大会（2004 年）のお知らせ

庶務幹事 遊川知久

日本植物分類学会第 3 回大会は次の通り開催する予定です。

1. 会場

広島大学大学院理学研究科（東広島市鏡山 1-3-1）
理学部 E 棟（大会会場・総会）・生協北 1 店（懇親会）

2. 日程

3 月 13 日（土） 午後 14:00 ~ 公開シンポジウム
（仮題）「植物の陸上化への歩み - その足取りを探る - 」
評議員会

3 月 14 日（日） 午前 口頭発表
午後 総会、記念講演、ポスターセッション、懇親会

3 月 15 日（月） 午前・午後 口頭発表（～ 15:00 頃まで）

3. 大会に関する連絡先

山口 富美夫
〒739-8526 東広島市鏡山 1-3-1
広島大学大学院理学研究科生物科学専攻
電話：0824-24-7404 Fax：0824-24-7452
E-mail：yamatom@hiroshima-u.ac.jp

なお、大会の詳細及び参加申し込み等のご案内は、次号のニュースレター（11月号）でお知らせします。

第4回大会開催地の募集

庶務幹事 遊川知久

日本植物分類学会第4回大会(2005年)の開催地を募集いたします。大会開催にあたっては、講演会場(約150名収容可能なもの)、クローク、本部、休憩室、ポスター発表会場等のスペースが必要となります。また、大会中に評議員会等の会議室をお借りすることになります。大会前の準備としては、大会案内と大会申し込み書の作成、プログラム編成、要旨集の編集・発行、懇親会会場の選定などがあります。大会運営は学会からの補助金(10万円)と参加費で行っていただきます。大会をお引き受け下さる(あるいは場合によっては引き受けても良い)という会員の方は、2003年10月20日までに庶務幹事宛(下記)にご連絡をお願いいたします。ご参考までに、これまでの大会開催地(旧学会大会を含む)は学会ホームページ(<http://www.soc.nii.ac.jp/jsps/>)でご覧になることができます。

〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1
国立科学博物館筑波実験植物園内
日本植物分類学会事務局(庶務幹事 遊川知久)
電話:029-853-8475 Fax:029-853-8998
E-mail: yukawa@kahaku.go.jp

2003年度日本植物分類学会関西地区講演会のお知らせ

講演会担当委員 福岡誠行

今年度の日本植物学会関西地区講演会は次の通り開催します。話題は、兵庫県の植物を中心にアレンジする予定ですが、詳細については次号のニュースレターで連絡します。みなさんの参加をお待ちしています。

1. 日時:2003年12月14日(日) 10時から16時、終了後懇親会
2. 場所: 頌栄短期大学(神戸市東灘区御影山手1)
3. 問い合わせ先

〒658-0065 神戸市東灘区御影山手1
頌栄短期大学
福岡誠行
電話:078-842-2541

アジアの植物多様性と分類に関する国際シンポジウム第1回案内 —

IAPT シンポジウム準備委員会幹事 加藤雅啓

アジアは植物の多様性がきわめて高い地域です。とりわけ中国、韓国、日本のような東アジアの植物相は、世界の温帯地域に比べて非常に多くの種からなり、また東南アジアの植物相はもっとも種多様性が高いといえます。そのため、アジアの植物多様性は進化、生物地理、生物多様性情報、系統、分類などの諸研究にとって格好の対象です。本シンポジウムは、アジアの植物多様性と分類の諸問題に関する研究について交流する絶好の機会です。特に、先端的な研究のアプローチや手法を用いた研究の現状について討議します。本シンポジウムでは基調講演、シンポジウム（招待講演者による一般シンポジウム5件と公開シンポジウム1件の計6件）、ポスター発表を予定しています。

本シンポジウムは国際植物分類学会（IAPT）などと共催して世界の植物分類学の振興をはかる国際シンポジウムで、今回は日本で開催されます。本学会会員の皆様のみならずアジアの植物と分類学に関心をもっている方々が大勢参加し交流を深め、アジアにおける植物分類学が発展することを期待しています。

会期 2004（平成16）年7月29日（木）～8月1日（日）
シンポジウムエキスカージョン：8月2日（月）日光

会場 国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市城内町117）

主催 日本植物分類学会 国際植物分類学会（IAPT）
国立歴史民俗博物館 種生物学会
日本藻類学会

後援 日本分類学会連合

内容 基調講演 = 7月30日

Sun Ge（孫革；吉林大学）：Early angiosperms and their developmental stages in Northeast China（東北中国の初期被子植物と発生段階）

長谷部光泰（基礎生物学研究所）：Molecular mechanisms of vegetative and reproductive organ evolution in land plants（陸上植物の栄養器官および生殖器官の進化の分子メカニズム）

シンポジウム = 7月30日～8月1日

- 1．系統地理：生物地理への分子的アプローチ（担当：梶田忠・瀬戸口浩彰）
- 2．アジアの植物多様性と植物相の研究（担当：邑田仁・秋山弘之）
- 3．アジアの植物の分子系統（担当：田村実・野崎久義）
- 4．生物多様性情報学と植物分類学（担当：伊藤元巳・永益英敏）
- 5．さまざまな植物群における種（担当：村上哲明・B. Tan）

ポスター発表 = 7月29日～8月1日

公開シンポジウム「海を渡った華花」 = 7月29日

言語 英語

シンポジウム準備委員会

岩槻邦男（委員長） 加藤雅啓（幹事） 辻誠一郎（歴博）
 邑田 仁、永益英敏、村上哲明、田村 実、秋山弘之
 野崎久義、綿野泰行

参加費等

	4月30日以前	5月1日以降
参加費（一般）	10,000 円	13,000 円
参加費（学生）	5,000 円	7,000 円
懇親会（一般）	5,000 円	6,000 円
懇親会（学生）	3,000 円	4,000 円
エキスカージョン	5,000 円	5,000 円

参加およびポスター発表申込方法

参加およびポスター発表の申込は下記のシンポジウムウェブページからお願いします。

シンポジウムウェブページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsps/iapt2004/>

シンポジウムウェブページからの申込ができない場合は、郵送またはファックスによる申込票をお送りしますので、下記までご連絡下さい。

連絡先

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻内

アジアの植物多様性と分類に関する国際シンポジウム準備委員会(喜多陽子)

電話：03-5841-2969 Fax：03-5841-4047

参加およびポスター発表申込み締切日：2004（平成16）年4月30日

振込先（振込締切り日：2004（平成16）年4月30日）

郵便振替：日本植物分類学会国際シンポジウム準備委員会

口座番号 00190-0-721603

銀行口座：三井住友銀行フラワータウン出張所

日本植物分類学会国際シンポジウム準備委員会 普通 3282958

宿泊（仮予約済みホテル）

ウィシュトンホテル・ユーカリ（285-0858 千葉県佐倉市ユ - カリが丘 4-8-1）

電話：043-489-6111 FAX：043-489-9898 ホームページ：<http://www.wishton.co.jp/>

1人シングル1泊料金 5,481円 2人ツイン1泊 8,316円（歴博割引、税別；一定数を仮予約していますので、宿泊申込みファックス用紙（巻末）で各自、予約は早めをお願いします。）

第3回（平成16年度）日本植物分類学会賞受賞候補者の募集 — 学会賞選考委員長 角野康郎

日本植物分類学会賞は、分類学の調査及び研究を通して本学会の発展に貢献された会員を顕彰するものです。プロ、アマチュアを問わず、さまざまな内容の調査・研究業績を幅広く対象にします。以下の要領で受賞候補者を募集致しますので、自薦、他薦を問わず、会員の皆様の積極的な応募・推薦を期待しております。なお、受賞候補者の選考は「学会賞についての細則」に定める学会賞選考委員会で行います。

募集要領

1. 資格：本学会の会員ならばどなたでも応募できます。
2. 応募方法：以下の事項を A4 用紙に記入して（書式は自由）下記の送付先にお送り下さい。
3. 記入事項
 - (1) 候補者の略歴（生年月日、学歴、職歴）
 - (2) 調査・研究業績の概要
 - (3) 業績リスト（著書、論文、他）と本学会大会での発表記録。できれば代表的な業績の別刷またはコピーを添付してください。
4. 送付・問い合わせ先：

〒305-0005 つくば市天久保4 - 1 - 1
国立科学博物館筑波実験植物園内
日本植物分類学会事務局日本植物分類学会賞選考委員会
電話：029-853-8475；ファクス：029-853-8998
E-mail: yukawa@kahaku.go.jp
5. 応募締切日 平成15年11月30日
6. その他：受賞者は平成16年春の日本植物分類学会総会において表彰されます。また受賞者には原則として同大会において受賞講演を行っていただきます。

国立情報学研究所電子図書館サービス (NACSIS-ELS) の利用について

図書幹事 布施静香

「APG: Acta Phytotaxonomica et Geobotanica」Vol. 1 ~ 最新巻と、「分類：日本植物分類学会誌」1巻 ~ 最新巻が、国立情報学研究所のホームページ上で表示・印刷できます。そこで、利用料金および利用方法についてご連絡いたします。

【利用料金】APG・分類とも

(会員)表示：すべて無料。

印刷：論文は1ページあたり25円(表紙、目次、索引など論文以外は無料)。

(非会員)表示：論文は1ページあたり25円(論文以外は無料)。

印刷：論文、索引は1ページあたり25円(それ以外は無料)。

【利用方法】利用申請が必要です。申請手順は、以下のとおりです。

- (1) 国立情報学研究所電子図書館サービスのホームページ (<http://www.nii.ac.jp/els/els-j.html>) から「ELS日本語版」のページに入る。
- (2) 「利用申請」のページから「国立情報学研究所情報検索 / 電子図書館サービス利用申請書」をプリントし、必要事項を記入する(記入に際しては、「記入要項」や「記入例」を参考にしてください)。
- (3*) 日本植物分類学会の会員である証明を受ける(証明を希望される方は、利用申請書の証明印以外の全ての項目をご記入の上、返信用封筒(切手も貼って下さい)とともに、学会事務局(庶務幹事：遊川)までお送りください。証明印捺印後、申請者にお返し致します)。
- (4) 国立情報学研究所 開発・事業部 企画調整課 共同利用係へ書類を郵送する。
大学等の研究機関に所属されている方は学会員の証明が不要ですので、上記3*の手続きはいりません。

利用に関する詳細は国立情報学研究所電子図書館サービスのホームページをご覧ください。また、申請手続きに関する不明点は開発・事業部企画調整課共同利用係(Tel: 03-4212-2225, 26, Fax: 03-4212-2230, E-mail: user-request@nii.ac.jp)へお問い合わせ下さい。

電子図書館は当学会以外の文献も扱っています。みなさまの活動のお役に立てただければ幸いです。

平成 15 (2003) 年度野外研修会のお知らせ

庶務幹事 遊川知久

人数にまだ余裕があります。ふるってご参加ください。

開催日：2003 年 11 月 8 日 (土) ~ 9 日 (日)

開催地：徳島県

申込締め切り：9 月 20 日必着

詳しくは前号をご覧ください。

会費納入と自動振替利用のお願い

会計幹事 横山潤

本学会の会費は前納制で、一般会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、団体会員 8,000 円です。納入状況はニュースレター送付の際の宛名書きの右下に「納済会費：数字」という形で示してあります (2002 年度から自動振替制度をご利用の方は、数字の代わりに「自動振替」と記入されています)。この数字が 2003 未済の方は、以下の郵便振替口座にお早めに納入いただきますよう、よろしくお願い致します。

口座番号：00120 - 9 - 41247

名 義：日本植物分類学会

ご承知のように昨年度より会費納入に自動振替をご利用頂けるようになっております。会計事務削減のため、なるべく本制度をご利用頂きますよう、よろしくお願い致します。ご希望の方は、自動振替依頼書にご記入・ご捺印の上、随時会計幹事にお送り下さい (ただし 2003 年度の会費引き落とし手続きは終了しておりますので、ご利用は 2004 年度からになります)。依頼書をご希望の方は会計幹事までお問い合わせ下さい。

新年度を迎えまして異動をされた会員の方は、新住所をお忘れなく会計幹事宛にお知らせ下さい。その他、会費納入に関するご質問、納入状況のご照会など、随時承っておりますので、お気軽にお知らせ下さい。会計幹事の連絡先は、ニュースレター巻末をご参照下さい。

国際植物命名規約 (セントルイス規約) 2000 [日本語版] のご案内

国際植物命名規約邦訳委員会 永益英敏

植物の学名に関する国際的な取決めである『国際植物命名規約』は、6年に一度開催される国際植物学会議で改正されます。命名規約は遡って適用されるため、過去の学名であっても最新の規約に従う必要があります。このたび最新の規約である『セントルイス規約』の日本語版が日本植物分類学会から発行される運びとなりました。翻訳には『ベルリン規約(1988)』『東京規約(1994)』の日本語版を出版した大橋広好東北大学名誉教授を委員長として、さまざまな植物群の専門家8名の委員があたりました。セントルイス規約ではタイプ指定や、化石植物などの学名に関する事項に大きな改訂がなされています。過去の日本語版をお持ちの方もぜひ一部お求めください。

日本語版仕様：B5判 ハードカバー（2003年9月刊行予定）

頒布価格：1部 2,000円（送料込）

申込方法：下の必要事項をご記入の上，申し込んでください。

（申込先および問合せ先）

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学総合博物館 永益英敏

Fax: 075-753-3276（電話: 753-3284） E-mail: nagamasu@inet.museum.kyoto-u.ac.jp

支払方法：日本語版に同封して発送する郵便振替用紙でご送金下さい。

申込の記入必要事項

1. 氏名
2. 送付先住所（郵便番号も忘れずに）
3. 電話番号
4. 必要部数
5. 公費払いをご希望の方は必要書類と通数、宛先および日付の記入方法をここにお書き下さい（例：見積書、請求書、納品書各1通）。銀行振込も可能です。

教官（教授）公募のお知らせ

東京大学 加藤雅啓

東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻で教授1名が公募されています。分野は植物を対象とした進化多様性生物学または関連分野で、優れた業績をあげ進化多様性生物学の研究および教育に熱意のある方が希望されています。植物分類学に深く関係する分野ですので、お知らせします。また、関係する方々に周知下さるようお願いいたします。

応募の形式：自薦または他薦のいずれでもよい。

提出書類（自薦の場合）：（1）履歴書、（2）業績目録、（3）主な原著論文10篇の別刷またはコピー（他に、もしあれば1,2篇の和文総説の別刷またはコピー）（4）これまでの研究概要（2000字以内）、（5）今後の研究計画および教育研究についての抱負（全体で2000字以内）、（6）推薦状1通または応募者に関して意見を聞ける方2名の氏名・連絡先。

提出書類（推薦（他薦）の場合）：（1）～（4）および推薦理由書。

応募締切：平成15年9月30日（火）（消印有効）

着任予定：平成16年4月1日

所属：同専攻進化多様性生物学大講座

書類提出先・問合せ先：封筒に「生物科学専攻教授応募」と朱書きの上、書留にて下記宛先に郵送して下さい。

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻 加藤雅啓

電話：03-5841-4046 Fax（電話兼用）：03-3818-5367

e-mail: sorang@biol.s.u-tokyo.ac.jp

同専攻ホームページ <http://www.biol.s.u-tokyo.ac.jp/>

Sun (孫) 博士らによる *Archaeofructus* の発見

-IAPT シンポジウム基調講演の紹介-

東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻 山田敏弘

「花はどこから来たのか?」、ダーウィンが“忌まわしきミステリー”と呼んだこの問題に対する明確な答えはいまだに得られていない。被子植物がどのような裸子植物に由来したのかは、我々分類学を学ぶ者が解決すべき大きな問題の1つである。この問題を解決するためには、被子植物に固有の特徴(共有派生形質)がどのように進化したのかを明らかにしていかなければならない。この作業を進める上で、これら被子植物の共有派生形質において、どのような特徴が原始的なのかを探ることは非常に重要な手段である。というのは、原始的な特徴は、“前被子植物”段階の特徴を推定する手掛かりを与えてくれる可能性があるからだ。原始的な形質状態を探る上で、より古い時代の被子植物化石の情報が大きな役割を果たす。

被子植物の代表的な共有派生形質の1つとして、胚珠が心皮に包まれることが挙げられる。心皮の獲得は胚珠の保護以外に、花粉発芽部位(柱頭)と受精部位(胚珠)の間に介在する組織(花柱)が、花粉管伸長における競争の場となって淘汰圧を与えただけでなく、その後多様な果実が進化するきっかけとなった、被子植物にとって重大なイベントである。これまでの発生形態学的な研究により、心皮は葉的器官に由来すると考えられているが、その進化過程については大きく分けて2つの説明がなされてきた。1つは心皮がシュートと葉の複合器官であると考えられるもので、この考え方に基づけばアンボレラやセンリョウに見られるような袋状の心皮が原始的であるということになる。もう1つは、心皮が葉の二つ折れによって生じたと考えるもので、この仮説はシキミモドキ科やデゲネリア科に見られる心皮をヒントに提唱された。また被子植物に見られる花そのものがどのように進化してきたのかについてもしばしば議論がなされてきた。例えば、真花説は、葉に由来する多数の雌蕊と雄蕊がらせん状に配列し、多数の花被片様の器官に囲まれた両性の孢子囊穂を先駆的な“花”と考える。一方偽花説は、胚珠と小孢子囊をつける別々のシュートを祖先段階と仮定し、これらシュートを含む軸系が短縮し、枝の腋に付いていた苞から花被片が生じ、花が進化したと考える。

1999年11月、衝撃的な被子植物化石が、Sun Ge 博士らのグループによって発表された(Sun et al. 1998)。 *Archaeofructus liaoningensis* と名付けられたこの化石は、中国遼寧省に分布するYixian層から発見された。彼らは、放射性同位体を用いた年代測定から、Yixian層は1億4500万年前に堆積した地層とした。すなわち、まだ日本が大陸と陸続きで、恐竜が歩いていたであろう、中生代ジュラ紀と白亜紀のちょうど境界あたりの被子植物化石が見つかったということであり、それまでの化石記録を1500万年も遡るものであった。さらにその後追加標本も見つかり(Sun et al. 2002) *Archaeofructus* の全体像が明らかとなった。その結果はこの植物が現生被子植物とは著しく異なっていることを示していた。この植物はシュートの頂端側に多数のらせん状(あるいは対生)に配列した袋果(心皮)を、同じシュートの基部側には多数の雄蕊を付け、花弁、がく片は持たない。心

皮は、柱頭と考えられる突起を持つ二つ折れ状であり、2個以上の胚珠(種子)を包む。シュートは心皮を付ける事で無限成長を終えるが、頂端では未成熟の心皮が多数集合し、軸が伸長するにつれて個々の間隔が開いて行く。雄蕊は基部で二又に分かれることもあり(彼らはこれをシュートの性質と考えている)花糸と葯の区別がはっきりとし、葯は葉のように扁平にならない。葯には単溝粒花粉が包まれる。これら生殖器官を付ける軸は、葉腋に付く。また、栄養葉の葉身は薄く、2 - 5回に分かれ、葉柄の基部が膨らむ。この膨らみは生殖器官に近い葉ほど大きくなっていく。さらに彼らはこれらの特徴とこれまでに蓄積された分子データに基づいて系統解析を行い、*Archaeofructus*が被子植物の最も初期に分岐した植物であることを示した。

彼らは、栄養葉の特徴などから *Archaeofructus* が水生の植物であり、葉柄基部の膨らみは植物体に浮力を与える役割を果たしたと推定した。特に生殖器官に近いほど膨らみが大きいことから、生殖器官を水上に持ち上げるために有効であったと考えた。また *Archaeofructus* に見られる心皮の特徴は、心皮起源の「二つ折れ説」を支持した。さらに重要なことは、*Archaeofructus* が、各心皮、雄蕊の間が離れた生殖シュートを付けており、花被片様の器官を持っていなかったことである。彼らの系統仮説に基づけば、生殖器官を付けたシュートが短縮し、さらにその後花被片が付け加わることによって現在見られるような花が生じたことになり、彼らはこのプロセスを偽花説的であると述べている。また、これら生殖器官に関する特徴は、カイトニアのようなシダ種子類に被子植物が由来する可能性を支持した。

もちろん彼らの解釈に異論はあるだろう。例えば、彼らの系統解析では、*Archaeofructus* が被子植物の基部に置かれたが、解析に使われた形質状態はこの属が被子植物の中で系統的にどこに位置するのを探るには不十分であるように思われる。また厳密に言えば、発生形態学的観察なしに、心皮が二つ折れ状か否かを判断することは不可能である。さらにはこの化石が最古の被子植物ではないとの意見もある。もし東アジアの生層序の常識が正しいとすれば、Yixian層は1億3000万年前より古い地層ではあり得ないのも頷ける。しかしながら被子植物の歴史の初期段階に、花らしからぬ花を持った、現在見られる植物とは明らかに異なる被子植物が存在したことは明らかであり、この化石が花の辿ってきた道筋に関する仮説の一可能性を示してくれたことは間違いない。

Sun 博士は1943年生まれ、現在吉林大学教授、中国古生物学会古植物学分会副主任で、中国を代表する植物学者である。アメリカのD. L. Dilcher 博士、日本の西田治文博士らとの共同研究も盛んに行い、国際的に活躍している。来年の国際シンポジウムでは *Archaeofructus* や中国白亜系産被子植物化石研究の経緯、現状、今後など興味深い講演が聞けるものと期待している。

参考文献

- Sun G., Dilcher DL., Zheng S., Zhou Z. 1998. In search of the first flower: a Jurassic angiosperm, *Archaeofructus*, from Northeast China. *Science* 282: 1692-1695.
- Sun G., Ji Q., Dilcher DL., Zheng S., Nixon CK., Wang X. 2002. Archaeofructaceae, a new basal angiosperm family. *Science* 296: 899-904.

書評

ふしぎの博物誌 動物・植物・地学の32話

河合雅雄 編 中公新書 (1680)

2003年1月発行 216頁

定価 740円 (本体) ISBN4-12-101680-7

兵庫県立人と自然の博物館「思わず子どもに話したくなる、とっておきの話が満載」と動物、植物、地学の三十二話が短編として語られている。第1章オトシブミのゆりかご(究極のリサイクル—糞食; シングルライフとレイプ; チョウは悪食など13話)、第2章熱帯雨林の妖怪ラフレシア(ランの増殖; 日本一の里山; 巨木の秘密など10話)、第3章象歯年代記(フズリナ化石が語るプレート運動の謎; 古生代は失われた楽園? ; みかげ石が教えてくれたことなど9話)。ページ数にすれば5、6ページずつ、それぞれの分野の研究者が、枚挙の学ではなく新しい博物学、科学の一分野としての面白さを紹介することを意識して語ってくれる。

自然をどういう風に観察すれば面白いのか、科学は自然をどういう風に解明して見せてくれるのかということの研究の裏話を交えて読ませてくれる。あちらこちらと拾い読みできるのが、短編集の良さである。しかし、寄せられた原稿を、内容に応じて分類し、各章にテーマ立てていったためであろうか、各章の結びつき、流れが弱いように感じた。

あとがきには、生涯学習の友となるような話題を集めて構成したとあるので、対象年齢はより広くとられているが、基本的には、本書は身近に子どもがいる大人に訴えかけるものとして作られている。本書の前書きには、子どもたちにこの本の内容やおもしろさを話してあげてほしい、との作り手の希望が述べられている。その点を重視すると、文中に不思議、秘密といった安易な表現が目につくのは残念である。本書の目的が、読み手の理解だけでなく、読み手が子供達に内容を伝えようとした時に達せられると作り手が意識しているのなら、内容が難しいと感じる読者も多いと思われる。読み手の理解を助ける表現の工夫も必要なのかもしれない。

博物館の機能の一つである社会教育の普及、その中でとくに近年充実を求められている生涯教育、学校支援というものが、施設に訪れた人だけを対象とするのではなく、書籍を通じてより広く働きかけている点に、本書の価値はあると思う。

(九州大学総合研究博物館 福原美恵子)

Hawaii's Fern and Fern Allies

著 Daniel D. Palmer 発行 University of Hawaii Press, Honolulu

2002年10月発行 324頁(ハードカバー)

定価 60 USD(本体) ISBN 0-8248-2522-5

ハワイ産のシダ植物を1種ずつ丁寧に紹介した本が出版された。著者のダン・パーマーさんは、本職は皮膚科のお医者さんで(現在は医業からは既に引退されている)シダ植物の勉強はアマチュアとしてやってこられた方である。とはいえ、シダ学の世界的権威であり、かつこの分野の牽引者でもあったミシガン大学の故ワレン・ワグナーJr.教授の指導をずっと受けながら、ハワイ産のものを中心にシダ植物全般について本格的に勉強してこられた方である。また、ダンさんのシダ植物に対する愛情と熱意には、プロの研究者も完全に顔負けなくらい非常に強いものがあって(これは、日本国内の優れたシダ植物愛好家にも全く共通することであるが)私などもアメリカシダ学会や国際シダ学シンポジウム、あるいはその後のエクスカージョンなどに参加すると、必ずといって良いくらいダンさんとお会いしていた。その知的でかつ温厚な人柄もあって、ダンさんと顔見知りの日本人シダ学者は少なくない。今回の本は、ダンさんの長年にわたる野外調査と勉強の成果が見事に結実したものである。

さて、今回出版された本の内容であるが、ハワイに移入して野生化した33分類群、および自然雑種も含む221分類群のシダ植物(いわゆる fern allies も含む)について、一つずつ解説がなされている。分類群の並べ方は、特定の研究者の科の分類体系によらず、狭義のシダ類(ferns)とその他(ヒカゲノカズラ類、イワヒバ類、マツバラン類など)にわけて、それぞれ属の学名のアルファベット順にならべられている。そして属の中は、種小名のアルファベット順である。また、属ごとに、それに含まれるハワイ産の分類群の検索表がついている。巻頭には、属の検索表もついている。

ここの分類群(種、あるいは種内分類群)の記述は、まず初めに学名、異名、現地名(ハワイでの呼び名)、英語名、そして、学名の由来の解説がなされている。次に、形態の記述、生育環境、そしてハワイのどの島のどのくらいの高度のところに生えているかが記されている。最後に、ダンさん自身のハワイでのフィールド調査による観察で気がついたこと、あるいは勉強の成果の一部がコメントとして書かれている。熱心にハワイ産のシダの種を一つ一つ野外で観察してきたダンさんならではの記述も多く、本書を魅力的なものにしている。また、線画も非常に多く(ざっと数えてみると線画のページだけでも105ページあった)丁寧に丁寧で見事である。特にそれぞれの種を特徴づけている形態形質がわかりやすく絵になっているので、英語があまり得意でない方でも、十分役に立ち、楽しめる内容になっていると思う。

私は、ここ15年ほどハウビシダ類の調査などで世界中の熱帯・亜熱帯地域をまわっているが、実はハワイはまだ調査には行ってない(中学生の時に英語の弁論大会で優勝して、遊びに連れて行ってもらったことはあるが...)。本書を片手に、ハワイのシダ植物をゆっくり調査してみたくなった。本書は、ハワイのシダ植物に興味のある全ての方にお薦めできる本である。

(京都大学大学院理学研究科植物学教室 村上哲明)

生物の形の多様性と進化 – 遺伝子から生態系まで –

関村利郎・野地澄晴・森田利仁 共編 発行 裳華房

2003年6月 352頁

4300円(本体) ISBN 4-78-535837-8

本書は生物の「形」をキーワードとした様々な総説の統合である。対象は動物と植物、さらに化石を含み、形の「多様性」と「進化」を理解するために遺伝子、物理・化学的理論、生態学、生物機能の視点から解析している。多岐にわたる分野を一冊にまとめることで、形態の理解に総合的な視点が必要であることを伝えようとしている。

生物の形態形成に関する研究を、理論と実験的検証という両面からバランスを考慮して紹介している。要約すると、(1)脊椎動物、ショウジョウバエや植物の花の形態形成などを題材にして、ウォルパートの位置情報説(理論)、位置情報の担い手(モルフォゲン)のシグナル分子およびホメオボックス遺伝子(実験的検証)について、(2)チョウの翅の色模様、熱帯魚の縞模様形成などを題材にして、実験的検証はまだまだ少ないがモルフォゲンの濃度勾配を形成するモデルとして注目されるチューリングの拡散不安定性理論について、(3)さらには植物のシュートや根、樹冠の形態と、最適化理論、利得ゲーム理論についての研究、(4)古生物の形態の研究とそれに対する発生学的、理論形態学的なアプローチについてと、バラエティーに富む。植物に関しては6編からなる。

実験と理論の統合・融合と分野を超えた総合化を通して、生物の形の多様性の問題に対して「鳥瞰像」を提出したいという編者の意図を反映して、本書は6編28章から構成され、内容は盛沢山である(日本語の総説に外国人共著者が加わっているのも本書のユニークさの表れだろう)。様々な総説を集めた結果、1章ごとが短くなり、かなりのバックグラウンドが必要である。専門外の生物の形態自体なかなかイメージをつかみにくいし、理論的解析(物理化学的なモデル構築、シミュレーション)の章は物理、数学に強くないとかなり手強い。読者の力量が試される側面も持っている。しかしながら、もっと知りたいと思ってしまう内容が散りばめられた本書は、生物の形態の研究に対するいろいろなアプローチを意識させ学ぶきっかけを与えてくれる。形の多様性と進化に興味を持って植物分類学に携わる人にとって幅を広げる意味でもよい参考書になるといえる。

(東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻 厚井聡)

ホームページ、もうみましたか？

日本植物分類学会ではホームページを設けています。Flora of Japanの内容公開をはじめ、耳寄りな情報やリンクも充実しています。ぜひ一度ご覧下さい。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsps/>

連絡員からときどき便り

・バヌアツのシダ植物・

国立科学博物館筑波実験植物園 松本定

シダ植物は孢子が風で散布され、熱帯山地雨林（雲霧林）ができる標高500m以上の熱帯の島には種類が豊富です。1996、1997、2000及び2001年にかけて行われた海外学術調査（筆者の参加は1997と2001年）で、南太平洋メラネシア地域のバヌアツ（1,214点）を中心にニューカレドニア（131点）、フィジー（75点）のシダ植物、計1,420点の標本を採集し、分類地理学的研究を行っています。採集品リストは筑波実験植物園研究報告第17号（1998）、同21号（2002）に掲載しました。また生植物300点以上は、細胞地理学的研究のため育苗し、筑波実験植物園の温室に展示する予定です。

バヌアツでは主に北のエスピリツサント島、中間のエファテ島、南のアネイチム島の熱帯山地雨林を調べ、不明種を含め約260種類を認め、イギリスのBraithwaite（1975）がまとめた249種などをつきあわせを進め、コケシノブ科については海老原・岩槻・岩科・杉村との共同研究によりまとめることができました（上記研究報告2002）。

バヌアツのシダ植物相はニューカレドニアとフィジーに続いて明らかにされつつあり、我々を寄せ付けにくいソロモン群島、ニューギニアに続く、マレーシア地域への南からのアプローチとなるでしょう。

さて標高500mまでの雲霧林下部ではツルキジノオ科などの木によじのぼるシダの葉形変化がおもしろく、特に *Asplenium amboinense*（チャセンシダ科）は興味深い生活史を送っているようです。写真のように地表をはって木によじ登り始めた根茎は細い葉をまばらにつけていますが、明るいところまで登ると急にその節間がつまり、成熟した広い葉をつけ、オオタニワタリに似てきます。このような鳥の巣状になると落葉をたくわえ、腐葉土を作って樹上生活に適した状態になります。さらに葉の先に無性芽をつけ、孢子では発芽しにくい腐葉土上に落ちて育ちます。空中湿度がやや低く、林床が平坦な陰湿地で腐葉土がたまりやすい林への適応戦略者と考えられます。

顕花、および隠花植物相調査を含めた企画展「南太平洋最後の秘境 バヌアツの植物と自然展」バージョン2が来年1月20日～2月22日に筑波実験植物園で開かれます。



Asplenium amboinense

・沿海州、こんなに多様でええんかい？

～アジアの植物紹介・ワレモコウ属植物～

九州大学 三島美佐子

ワレモコウバカ (= *Sanguisorbaka sensu Suyama*) の私にとって沿海州は、アコガレの地のひとつ。というのもナガボノワレモコウ群の最も低次の倍数体 (4 倍体) が、この沿海州から報告されていたからだ。2001 年の秋、某御三方と共に、ちょっと沿海州まで行って来た。

ウラジオストックからウスリースクを抜け、ハンカ湖目指して北上する道すがら、いるわいるわ、ワレモコウが。こんなにウジャウジャ延々と生えている状態は、日本ではお目にかかれない。おお、ナガボも生えている。北海道・青森あたりで見られるような光景だ。

4 倍体が報告されていたコミッサロフに入り、典型的な *S. parviflora* と御対面。その長く垂れ下がる花序はさながら、手首から滑り落ちる小真珠のプレスレットのようである (ちょっと酔いすぎ)。ナルホド、日本のナガボとは全く異なる (帰国後その個体が 4 倍体であることも確認できた)。感激に目を潤ませながらふと数メートル先を見ると、でかいワレモコウがのんびりゆれている。やや、その手前に、ほんのりピンクがかった、いかにも雑種臭い中間型個体が。写真、写真 (しかし皆さんにその画をお見せできないのが残念です、フィルムが入っていなかったので・・・) *

ところがこれはほんの序の口で、キャンプサイト近くのちっこい小山の麓には、白色から赤色まで色とりどりの中間型が大繁茂。この中間型、シホテアリンを越えた東海岸でも繁茂していた。道中訪れたサイトの中には、中間型のひとつのタイプが固定したような集団もあった。



中間型の花序 須山知香氏撮影

トリップ 4 日目に訪れたツェルカルナヤでは、海岸の砂浜や汽水域にナガボががめつく生え、吹きさらしの岸壁の上では矮小化したワレモコウがぶるぶると風に吹かれている。ワタクシ的には違和感を覚える光景・・・形もさることながら、ハビタットも多様だ。

結局ほんの 1 週間のトリップで、これまで私が日本で見たことのあるワレモコウとナガボのたいがいの変異は、見ることでできてしまった。沿海州の南のほんの一部だったけれど、想像以上に多様だったよう。

*(編集幹事注) 興奮した三島さんを (横目で) 冷静に見ていたと思われる須山さんから、写真を提供していただきました。白黒印刷なのが残念。

会員消息

逝去

本会会員井上健氏は平成 15 年 7 月 28 日にお亡くなりになりました。深く哀悼の意を表します。

以下の会員の連絡先をご存じの方は、会計幹事までお知らせください。

木村陽二郎，坂井奈緒子，脇田悟寿

編集後記

この号の編集に大わらわのとき、井上先生の訃報を耳にしました。先生には前号まで、絶滅危惧植物関連の記事をたくさん書いていただいていた。本当に、ご冥福を心からお祈りしています。どうぞ、これから野外へ調査に行かれる方は、こんな悲しいことが二度とないよう、気をつけて行って来てください。

さて、IAPTと共催するシンポジウムも、タイトルの決定とともに、だんだん現実味を帯びてきました。会が英語で行われるため、「ちょっと敷居が高い」と思われる方もいらっしゃるかもしれません。ニュースレターでは、そんな方にもシンポジウムの内容を覗いていただけるよう、少しずつですが記事を発表していきたいと思っています。ご期待ください。

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学博物館

西田佐知子

電話：052-789-5764 ファックス：052-789-5896

Email: nishida@num.nagoya-u.ac.jp

入会申込、住所変更、退会届、会費納入、購読申込などは下記へご連絡ください。

〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉
東北大学大学院生命科学研究所生態システム生命科学専攻

日本植物分類学会 横山潤（会計幹事）

Phone:/Fax: 022-217-6689

E-mail: jyokoyam@mail.cc.tohoku.ac.jp

会費：一般会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、

団体会員 8,000 円

郵便振替 00120-9-41247

平成 15 (2003) 年 8 月 18 日印刷

平成 15 (2003) 年 8 月 26 日発行

編集兼 名古屋市千種区不老町

発行人 名古屋大学博物館

西田佐知子

発行所 つくば市天久保 4-1-1

国立科学博物館筑波実験植物園

日本植物分類学会

F A X

FAX 番号 043-489-9898

送信先

ウィシュトンホテル・ユーカリ

285-0858千葉県佐倉市ユ・カリが丘4-8-1

電話043-489-6111 FAX043-489-9898

ホームページ <http://www.wishton.co.jp/>

アジアの植物多様性と分類に関する国際シンポジウム
宿泊予約申込書

宿泊者氏名 _____

所属・住所（連絡先） _____

電話 _____ F A X _____

電子メール _____

宿泊日： ____月 ____日 ~ ____月 ____日（ ____泊）

部屋タイプ：シングル・ツイン（どちらかに をつけて下さい）

宿泊者人数：1人・2人（どちらかに をつけて下さい）

3人以上（部屋タイプと利用人数などを分けて書いて下さい）